

令和7年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
106	川崎市立 麻生小学校	末武 由布子

学校教育目標	今年度の重点目標
○進んで学びとろうとする子ども ○美に感じ、思いやりのある子ども ○自分で考え、進んで行う子ども ○心身ともにたくましい子ども	1. 主体的に考え、課題をもち、解決していく力の育成<確かな学力> 2. 互いを大切にし、認め合い高め合える学級・学年づくり<豊かな心> 3. 主体的に学校生活に関わり、心身ともに健やかに生きる力の育成<健やかな心身> 4. 地域に開かれた魅力ある、信頼される学校づくり

一人ひとりが認め合い 自分らしさを輝かせ 響き合う学校

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策	
1 確かな学力の育成	主体的で対話的な学びの実践	校内研究では算数科で「他者の考えから、自分の考えを広げ、深める子」をテーマに自分の考えを友だちと伝え合い共有したり話し合ったりしながら学び合う授業づくりに取り組んだ。そのような学習の仕方が定着しつつあるが、より深い学びへとつながるようにしていきたい。	引きつづき校内研究や各学年での教材研究を通して、主体的で対話的な学びが深い学びにつながるような授業実践に取り組む。	
	知識・技能、学び方の習得、活用	・体験や経験を活かし、「わかった」「できた」達成感と「もっと学びたい」という意欲的な学習活動の展開を図る。	生活科や総合的な学習、社会科などを通して地域の材や人を活かしたカリキュラムづくりに努めた。見学や体験的な学習を多く取り入れ、学習への意欲と理解を高めることができた。児童も9割以上が「学習がよくわかる」と答えている。さらに自ら課題を見つけ、解決のために探求する力を育てていきたい。	全学年を通して系統的に地域素材を効果的に活用できるカリキュラムの充実を図っていく。体験的で探求的な学びとなるよう、各教科や学年の関連を図り、「わかった」「なるほど」「おもしろい」と学びに主体的に向かう児童の育成を図る。
	個に応じた効果的な指導方法の工夫	・個の学びを引き出すカリキュラムの工夫、個の特性に合わせた教育の充実を図る。	個別最適な学び、協働的な学びを組み合わせながら、個の学びが深まるような授業を工夫した。しかし学力学習状況調査等の結果から学習の理解度に二極化が見られ、自信をもてない児童もいる。	児童のニーズに合った指導方法、学習形態を工夫し、授業改善に努めていく。個に応じた学習支援を校内、保護者、寺子屋等とも連携して取り組んでいく。
	情報活用能力の育成	・GIGA端末を正しく活用した授業とモラル教育の充実を図る。	各教科でGIGA端末を活用し、個に応じた学習や、習熟、児童同士の学習成果の交流を行い成果が見られた。利用のモラル面では課題があるので、正しく、より効果的な活用方法を校内で共通理解しながら取り組んで行く必要がある。	今年度教職員でもGIGA端末を授業で活用していくための研修を行った。今後も研修を重ね、授業改善のためにどのようにGIGA端末を活用していくかを検討していく。
2 豊かな心の育成	あたたかな関わりを生む学級・学校づくり	・多様性を認め他者と協力して皆が安心して学習したり生活できたりすることができるための環境づくりを行う	学年、学級で決めた目標のもと、安心して過ごすことができる学級、学校づくりにつとめた。いじめや不登校につながる状況等の早期発見に努め、教職員間、関係機関との連携、個々の児童に応じた対応を行った。	「多様性の包摂」を教職員もあらゆる場で意識し、教育活動に取り組む。担任だけでなく、学年、担当する教職員皆で児童を見て、育てていく体制を整え、教職員と児童、児童同士の信頼関係、あたたかな関わりを構築し、児童が安心して生活することのできる学校づくりに取り組む。
	いじめをしない、ゆるさなない風土づくり	・人権尊重教育の推進を系統的に行い、いじめを絶対に行わない、ゆるさなない学校・学級の風土づくりに努める。	年間を通して共生*共育や道徳等で他者ともに大切にすることを人権感覚を育む取組を行ってきた。人権週間には児童会による「いじめ防止行動宣言」の取組もあり、全児童が考える機会となっている。児童全員が「いじめをしない、ゆるさなない」と自信をもって言えるよう、取組を実生活に実感的につなげていく必要がある。	共生*共育や道徳での学びを日常生活と結び付けて考えられるよう、生活目標や学級目標、日々の児童指導の中で意識して実践力を育てていく。引き続き「いじめをしない、ゆるさなない」風土づくりに努める。
	安心して生活できる環境・体制づくり	・児童や保護者の不安や悩みに寄り添い、他機関とも連携して解決に向けた支援を継続して行う。	学校生活アンケート等により児童の困り感や不安を早期に察知するよう努めた。個人面談や教育相談を設定、相談窓口について周知し、相談しやすい体制を構築している。学校カウンセラーや他機関とも必要に応じて連携し児童、保護者の困り感や不安に寄り添うよう努めた。	「困ったときに身近な大人に相談できる」という児童が高学年になるにつれ減っている実態がある。学校生活アンケートの実施と活用方法をより効果的なものになるよう検討する。さらに児童、保護者ともに相談しやすい体制づくりに努める。
	自己有用感を感じることのできる経験、環境づくり	・発達段階に応じて集団の一員として活動する力やリーダーシップを発揮する力を養う。	児童会による主体的な取組が多く見られた。運動会を盛り上げるための活動や人権週間での取組、麻生小35周年を祝う活動など全校児童をリードし学校を盛り上げた。各委員会でも工夫した活動が活発に行われた。	「自分にはいいところがある」と回答する児童が高学年になると減っていく傾向がある。児童会や委員会活動を通して、その取組が認められ、自己有用感につながるよう、活動したことが学校のため全児童のためになっていると実感できるよう働きかけていく。
3 健やかな心身の育成	主体的に学校生活に関わる力の育成	・各行事等を通して、進んで創造的に生活する意識を高め、一人一人が活躍できる場づくりに努める。	運動会や学年行事、各学級の係活動等に意欲的に参加し自分の役割を果たそうと前向きに取り組んでいる様子が見られた。各学年で実行委員等一人ひとりが役割を担って活動し、活躍する場をつくり、児童の主体性を育むよう努めた。	物事に意欲的にまじめに取り組むが、主体的に創造し活動していく力をさらに育てていきたい。失敗を恐れず安心して物事に取り組むことのできる環境を整え、児童の思いや考えを大切にしたい学校行事、学年行事等の運営を行っていく。
	他者意識をもち、協働的に取り組む力の育成	・清掃活動や奉仕活動など、皆が気持ちよく生活できる環境づくりに向け、主体的に取り組む、行動する姿勢を育む。	クリーン作戦として校内、校外の清掃美化活動に取り組んだ。今年度は保護者ボランティアも募り、地域の一人ひとりの活動と意識して行うことができた。日々の清掃活動や当番活動、委員会活動等が学校生活を自分たちの手でよりよくしていくことにつながることを意識させていきたい。	児童の日々の活動が達成感や集団への帰属感、自己有用感そして地域の一人ひとりの意識につながるよう、年間行事計画や、生活・総合的な学習、特別活動等の年間カリキュラムを工夫する。
	命を守り自ら健康づくりができる力の育成	・身体と心の健康、体力の向上、安全への意識を高めるために必要となる知識と技能の習得を図り、実践していく力を育成する。	保健学習や食育、避難訓練等を通して、健康安全教育を推進した。心と身体をつながりを意識し児童自ら健康な生活を考え実践できるようにするとともに、自分の命は自分で守る判断力と行動力を育てる避難訓練等防災教育を行っていく必要がある。	様々な事態を想定した避難訓練、防犯、不審者侵入対応訓練等実践的な防災教育を行っていく。体力向上を目指したキラキラタイムの充実、心身の健康の保持増進のための相談体制や指導を継続して行っていく。
4 地域に開かれた学校づくり、信頼される	保護者、地域との連携情報共有	・保護者や地域と一層の連携を図り、児童の安心安全な学校生活の維持に努める。 ・効果的な情報公開や発信、受信を通して、保護者や地域の学校運営への理解を図る。	授業参観や個人面談、学校行事等を通して学校へ来ていただく機会をつくり、また学校だより、ミマモルメ等での迅速、確実な情報提供に努めた。学校生活の様子を発信するために学校ホームページの更新にも努めた。図書ボランティアや水泳見守りボランティア、引率ボランティア等多くの保護者の方に学校教育にご協力いただいた。学校運営協議会麻生小分會も開催し、教育活動についてご意見を伺うことができた。	学校評価アンケートの充実、学校運営協議会の開催等を通して保護者や地域の方の意見を伺い、学校運営に反映していく体制を整えていく。引きつづき各種ボランティアにご協力いただき、児童の体験活動を充実させていくとともに、学校、保護者、地域の連携を深める。
	地域で育つ子の育成	・ふるさと川崎、麻生のまちへの愛着を深め、誇りをもって生活することのできる児童を育成する。	地域に出での学習や夏祭り、ひだまり大作戦等地域のイベントへの参加を通して地域のよさを感じている児童が増えている。	地域素材を生かした学習カリキュラムづくりにつとめ、学びと地域と自分をつなげて考えられることのできる児童を育てていく。
	学び続ける教師働きやすい環境づくり	・信頼される学校となるよう、教職員の資質の能力の向上を図る ・自己研鑽を図りながら、働きやすく、働きがいのある職場環境を整える。	各種研修会の実施、各自が選んで参加する外部研修会などに参加しやすい環境を整えた。互いの授業を見合ったり、学び合ったりして各自が資質能力の向上に努めた。働き方・仕事の進め方改革への意識を各自がもち、それぞれができる校務改善に取り組んだ。	自身のスキルアップのため、各自自発的な研修を計画することができるような体制を整える。それをその場だけのものとしないう、アウトプットの場を設け、教職員同士の学び合いができるようにしていく。働き方を自らデザインし実行できるような環境を整えていく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
・学校評価アンケートから、学校の取組について多くの保護者の方に肯定的な回答をいただき、一定の評価をいただいている。 ・学習の理解度は高いが二極化が見られるという実態があり、それに対して寺子屋など取組みが効果があるのではないかと感じた。 ・子ども、地域、保護者が一緒に活動できる場がもっとあるとよいと感じている。 ・学校教育目標や学習指導要領等について保護者子どもにも理解が深まるとよい。主体性がキーワードになっており、これから必要な力だと思ふ。 ・ボランティアで子どもと活動していると子どもから自然と「ありがとう」の言葉が出てきてうれしく思ふ。	・学校運営方針のもと、教職員がそれぞれの役割を理解し、教育活動に取り組むことができた。学年での連携を密にし、学年担任全員で学年の児童全員をみていく体制ができていく。 ・学習に対し、前向きに取り組む姿勢が見られ、理解度も高い反面、自分の考えや思いを表現することに自信をもつことができない児童もいる。引き続き、学習、学校行事等学校生活の中で自分の考えを様々な形でアウトプットしたり、友達と共有したりする場を多く設定し、児童の深い学び、豊かな学校生活につなげていくための改善を行っていく。 ・児童支援コーディネーターを中心に児童の困り感に対しチームで対応し、課題の早期発見、迅速な対応を心がけ、行ってきた。教職員一人ひとりの人権感覚を磨いていくことが信頼される学校教育につながると思ふ。児童に寄り添った対応ができるよう、今後も学び合い高め合っていく。 ・地域で子どもと育てるといふ意識をもち、保護者や地域との連携について考えてきた。今後も地域とともにある学校として、よりよい連携、協力体制を考えていきたい。